

戦前の出版検閲を語る資料展

浮かび上がる

検閲の実態

戦前期の日本では、内務省があらゆる出版物の検閲を行っていました。実際に検閲業務で使用された本や発売頒布禁止処分を受けた本、出版検閲の関連資料からは、当時の検閲体制下における出版事情を窺うことができます。昭和初期の出版検閲についてパネルで解説するとともに、千代田図書館蔵「内務省委託本」をはじめ、検閲の実態を今に伝える貴重な本や資料を展示します。

会期
2011年1月24日(月)
～3月26日(土)

会場
千代田区立千代田図書館
9階 展示ウォールほか

協力 国立国会図書館
江東区立深川図書館

内務省
著原ツツト
研究講の天四女
譯郎太徳田安

DE JAP

PPD
削除不津東可然哉
敬告親藤通
七、五、三。記事差止参照
三四、三六、五五頁
内務省委託本
東武帝國教育會館出版部
寶典

展示関連イベント

講演会

① いつ・だれが・どのように 検閲したのか

内務省の検閲は、言論弾圧の象徴とするイメージのみが継承され、検閲官が実際にどのような検閲を行ってきたのか、未解明のままです。千代田図書館蔵「内務省委託本」の調査を通して見えてきた検閲の実態についてお話しします。

日時 2011年1月28日(金)
19:00~20:30

講師 安野一之氏
(国際日本文化研究センター共同研究員)

② 戦前期の 発禁本の ゆくえ

戦前期の内務省による出版検閲によって発売頒布禁止や削除などの行政処分を受けた図書(発禁本)は、現在どこに在るのか。発禁本の類型を大まかにつかんだ上で、日本国内のみならず米国に渡った検閲図書の所在についてお話しします。

日時 2011年2月18日(金)
19:00~20:30

講師 大滝則志氏
(東京農業大学教授、
元国立国会図書館副館長)

③ 戦前期の 出版検閲と 法制度

戦前期の出版検閲は法によってどのように規定され、検閲を行った内務省図書課とはいかなる機関だったのか。出版法制、組織体制、そして様々な禁止処分のかたちを通して、昭和初期を中心に出版検閲の実態についてお話しします。

日時 2011年3月11日(金)
19:00~20:30

講師 浅岡邦雄氏
(中京大学准教授)



①~③ いずれも

場所 千代田図書館9階 特設イベントスペース(18:30開場)
定員 40名(当日先着順・事前申込不要・参加無料)
問合せ 千代田図書館 共催 神田雑学大学

ミニ展示

発禁本の境界

一体何をどこまで書くと発禁処分を受けるのか。検閲官が発禁と判断する境界は何処にあったのか。発禁本と検閲をパスした本に残された、検閲や修正の痕跡を見比べてご覧ください。

会期 2011年1月24日(月)~3月26日(土)
場所 千代田図書館9階 セカンドオフィスゾーン内ミニ展示コーナー



「左翼小児病」(希望閣、大正15年)
国立国会図書館蔵

会場案内

千代田区立千代田図書館

東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所本庁舎内
電話 03-5211-4289・4290

アクセス 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅下車4番または6番出口から徒歩5分

開館時間 月~金 = 10:00~22:00
土 = 10:00~19:00
日・祝 = 10:00~17:00

定期休館日 毎月第4日曜日
※展示期間中の休館日 2月26日(土)~28日(月)



千代田図書館蔵「内務省委託本」について

1937(昭和12)年頃以降、内務省で検閲業務に用いられた原本の一部が、千代田図書館の前身である東京市立駿河台図書館をはじめとする市立図書館4館に委託されることになりました。当館では、これらの資料を「内務省委託本」と呼び、現在約2,300冊が確認されています。当館の所蔵する「内務省委託本」は、実際に検閲に使用されたもので、内務省の係官が内容をチェックするために引いた赤線・青線、出版の可否についてのコメントなどが残されています。発売頒布禁止となった本は含まれていませんが、当時どのように検閲が行われていたのかを知ることができるという点で、出版史上貴重な資料です。現在、調査・研究の利便性向上のため、資料集(解説付き目録)の発行準備を進めています。

<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/facilities/valuable.html>